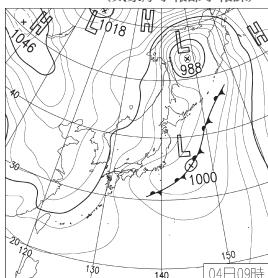


# 日々の天気図

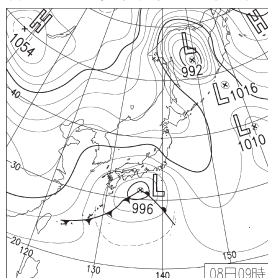
— No. 145

## 2014年2月

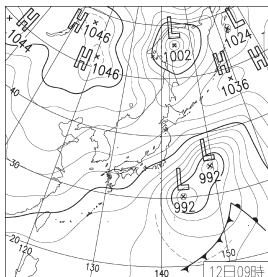
- 7日～8日と14日～16日、太平洋側で2度にわたる大雪、南岸低気圧の影響で広い範囲で大雪となり関東甲信を中心に最深積雪の記録を大幅に更新。
- 15日～19日、発達した低気圧の影響が続き、北日本は大雪や暴風雪となる大荒れの天気。  
(気象庁予報部予報課)



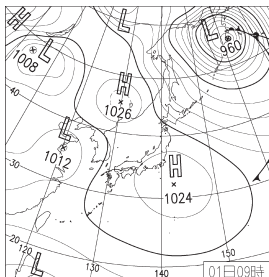
**4日(火)立春寒波**  
寒気の影響により全国的に気温が下がりがり、国内観測点の約3割、250地点で真冬日、145地点で最高気温が前日より10℃以上低い。鳥取県大山で日降雪量60cm、東京都心でも積雪。



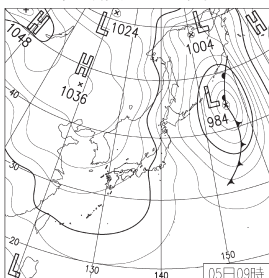
**8日(土)西日本～東日本で大雪**  
南岸低気圧の影響で、西～東日本で大雪、関東～東北では暴風、最深積雪は千葉県中央区32cm、東京都千代田区27cm、千葉県銚子で最大瞬間風速35.8m/s、福島県で震度4が2回。



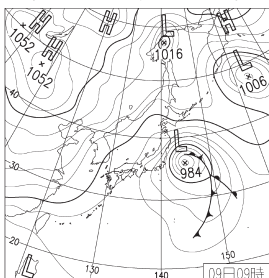
**12日(水)北東風強まる**  
発達した低気圧が関東の南東海上にあり、沖縄～東日本の広い範囲で北東風が強まる。東京都八丈島八重ヶ原で最大瞬間風速32.9m/s、関東や東北太平洋側の一部で雨や雪。



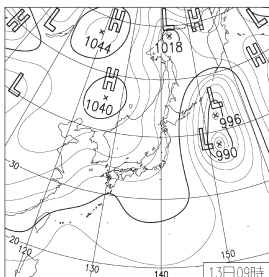
**1日(土)西日本は4月並の暖かさ**  
西～東日本は冬型の気圧配置が緩み気温上昇。九州を中心に西日本各地で4月並の最高気温。北日本は冬型の気圧配置で風が強く、北海道えりも岬で最大瞬間風速29m/s。



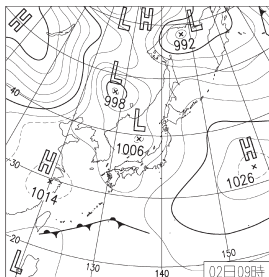
**5日(水)厳しい寒さ**  
冬型の気圧配置が続き、強い寒気流入。晴れた太平洋側も日中の気温はほとんど上からず全国的に厳しい寒さ。北海道観加内町朱鞠内の最低気温は平年より13.5℃も低い-30.8℃。



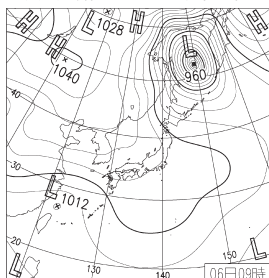
**9日(日)網走で流水接岸初日**  
北日本の太平洋側を中心に大雪、西日本の日本海側や北陸も雪。西日本太平洋側・東海・関東は晴れ。沖縄・奄美は気圧の谷の影響で雨。仙台の最深積雪は歴代3位の35cmに。



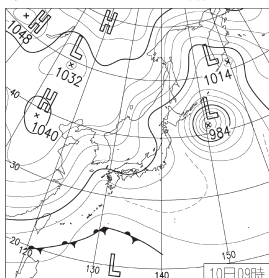
**13日(木)沖縄で低気圧発生**  
気圧の谷の影響で、沖縄～西日本は曇りや雨、夜に沖縄の南で低気圧発生。北日本では冬型の気圧配置となり、日本海側で雪や雨。九州では最高気温が平年より6℃以上低い所も。



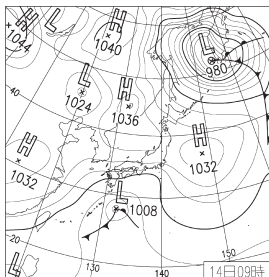
**2日(日)暖かい西～東日本**  
南寄りの風で西～東日本を中心に気温上昇。長崎県雲仙岳で最高気温が18.2℃、鹿児島県瀬戸内町古仁屋で24.7℃など、2月の1位記録を計5地点で更新。奄美地方で震度4。



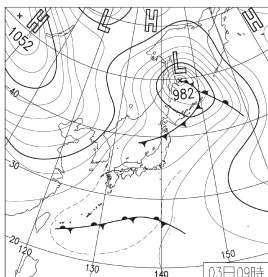
**6日(木)寒さ続く**  
冬型の気圧配置が緩み、低気圧の影響を受けた西日本は雪や雨、日中の気温は全国的に低く、真冬日407地点。埼玉県寄居-8.2℃、福島県浪江-12.4℃、最低気温の史上1位を更新。



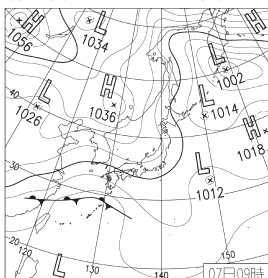
**10日(月)石垣市でサクラ満開**  
晴れたのは東日本～東北太平洋側と北海道の一部。西日本は気圧の谷により曇りや雨で気温が上がらず、日中の最高気温は平年より4～7℃低い。石垣市でヒカンザクラ満開。



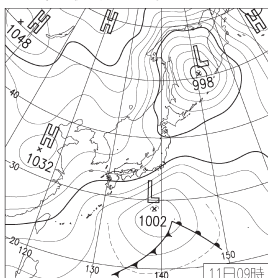
**14日(金)西～東日本で積雪**  
南岸低気圧の影響で西～東日本は雨や雪、四国・近畿・東海・関東甲信では広い範囲で平地でも積雪。甲府は日降雪量83cmの大雪、東京都三宅島坪田は日降水量187mmの大雨。



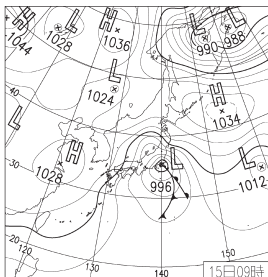
**3日(月)広い範囲で霧・もや**  
朝の最低気温は平年より高く、岩手県宮古では9.4℃で5月下旬並。暖かく湿った空気が流入したため、西～東日本の各地で霧・もやを観測。宮古島市でヒカンザクラ満開。



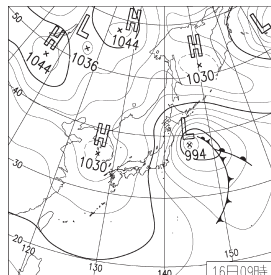
**7日(金)西から天気下り坂**  
東シナ海の低気圧に近い西日本は雨となり、沖縄県うるま市宮城島では39.5mm/1h、北陸及び東日本～北日本の太平洋側は晴れ。青森市酸ヶ湯の最深積雪401cm。



**11日(火)関東南部で雪**  
低気圧と寒気の影響により関東南部は雪。千葉県中央区で日降雪量11cm。群馬県嬬恋村田代では-17.2℃と、日最低気温の史上1位を更新。宮崎県鏑塚山で平年より24日遅い初冠雪。

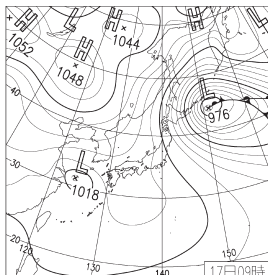


**15日(土)太平洋側で記録的大雪**  
低気圧の発達に伴い関東甲信を中心に大雪。最深積雪は甲府114cm、前橋73cm、熊谷62cmなど甲信～東北の15地点で観測史上1位を更新。東京都千代田区も27cmの積雪。



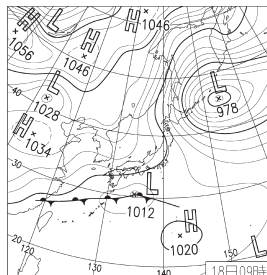
### 16日(日)低気圧の発達続く

西～東日本は晴れたが、大雪をもたらした低気圧が北上しながら発達を続けた影響で北海道東部は雪、北海道えりも岬で最大瞬間風速44.2 m/s、北海道枝幸町歌登で日降雪量41 cm。



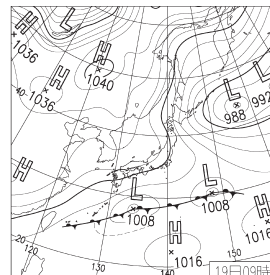
### 17日(月)2つの低気圧

発達した低気圧が北海道の東海上ではほぼ停滞、北海道を中心に北寄りの風が非常に強く北海道羅臼で最大瞬間風速36.4 m/s、東シナ海を東進する低気圧により西日本で雨域広がる。



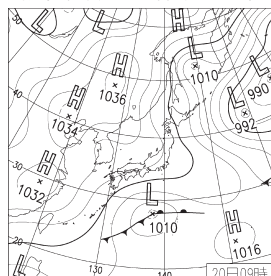
### 18日(火)北海道で暴風雪続く

北海道の東海上の低気圧は動きが遅く、北海道で暴風雪・大雪が持続。枝幸町歌登で最深積雪199 cm、2月の記録更新。四国沖の低気圧の影響で、西日本は雨、九州北部で暴風。



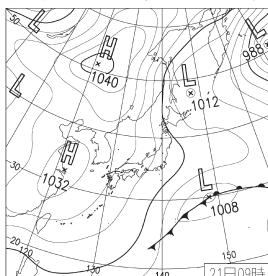
### 19日(水)北海道、風雪強い

千島の東の低気圧は、ゆっくり東進。北陸や北日本日本海側は雪、北海道は引き続き風雪強い。南海上の前線や低気圧により沖縄・奄美や九州南部で雨。広島市でツメ開花。



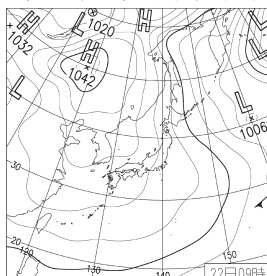
### 20日(木)雲の多い天気

北日本で冬型の気圧配置が続き、北海道宇登呂では最深積雪186 cmとなり史上1位を更新。西～東日本は、太平洋側は南海上の前線や低気圧、日本海側は寒気により、共に曇多い。



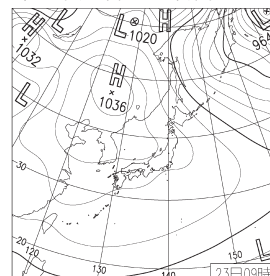
### 21日(金)冬型の気圧配置

日本海側は雪、太平洋側は晴れ、日中も気温は上がらず、真冬日は268地点。北日本では333地点すべてで冬日。東京都父島では寒冷前線通過時に最大瞬間風速20.7 m/s。



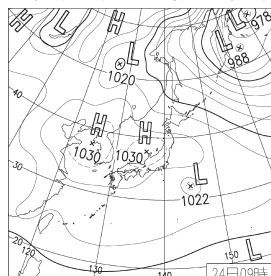
### 22日(土)北日本の降雪続く

東～北日本は冬型気圧配置が続き、日本海側で雪。その他の地域は晴れたが気温は上がらず、最高気温は全国的に平年並または平年より低い所が多い。鹿児島市でタンポポ開花。



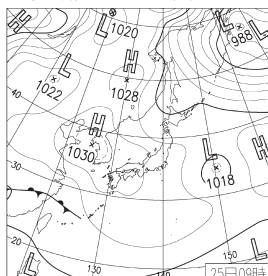
### 23日(日)高気圧が張り出す

冬型の気圧配置で曇りや雪となった北日本日本海側を除き、高気圧に覆われ広い範囲で晴れ。九州や北海道オホーツク海側では気温上昇、最高気温が平年より3℃前後高い所も。



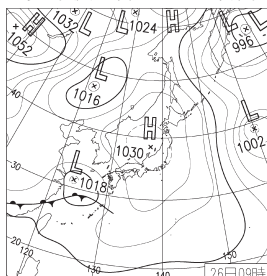
### 24日(月)東海以西は晴れ

高気圧に覆われ東海以西や北日本太平洋側は晴れ。気圧の谷の影響を受けた関東と寒気の影響を受けた北日本日本海側は曇り所々で雪や雨。熊本市と高松市でモンシロチョウ初見。



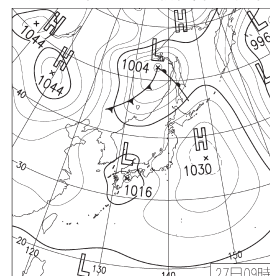
### 25日(火)3週間ぶりに春の陽気

北陸～東北日本海側と九州南部では曇りや雨、その他は概ね晴れ。最高気温は全国的に平年より高く、3月下旬～4月上旬並となった所も多い。銚子市と熊谷市でヒバリ初鳴。



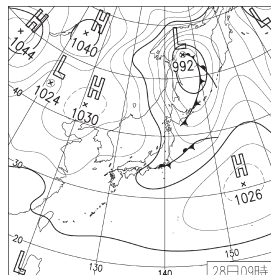
### 26日(水)各地で気温4月並

低気圧が九州に接近し西日本は天気下り坂、九州は一日中雨。鹿児島県肝付町内之浦で61.5 mm/1h。東～北日本は晴れ。暖気が入って全国的に気温上昇、最高気温は4月並の所も。



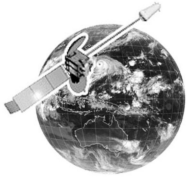
### 27日(木)太平洋側で強雨

西～東日本の太平洋側では、低気圧の東進に伴い南から湿った空気が流入。九州や四国の太平洋側沿岸部で激しい雨。鹿児島県種子島(西之表)で51 mm/1h。水戸市でツメ開花。



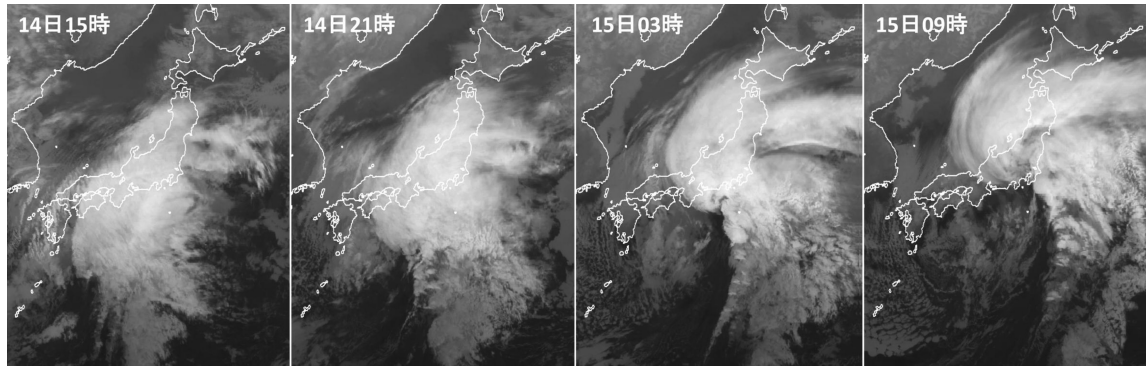
### 28日(金)全国的に気温上昇

前線通過後、冬型の気圧配置となったが、前日に南から流れ込んだ暖気が残る全国的に高温。最高気温は太平洋側で平年より6℃以上高い所も。カロリン諸島で台風第3号発生。



## 今月のひまわり画像—2014年2月

### 関東甲信地方に記録的な大雪をもたらした低気圧

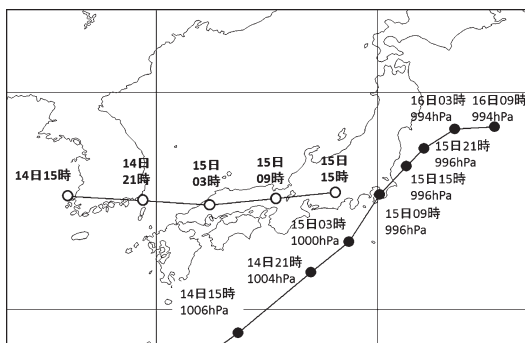


第1図 2014年2月14日15時～15日09時（日本時間）の6時間毎の日本付近の赤外画像。

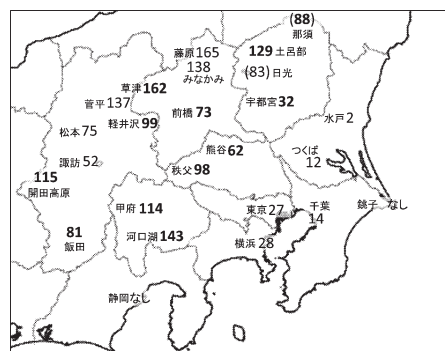
第1図は2014年2月14日15時～15日09時（日本時間）の6時間毎の日本付近の赤外画像である。この画像では、14日12時頃から低気圧の発達を示唆するバルジが本州付近で明瞭となっており、低気圧は中上層のトラフの接近に伴い急発達しながら本州南岸を北東に進んだ（第2図）。当期間の高層天気図（図省略）によると、850 hPa 面では関東地方は雪の目安となる $-6^{\circ}\text{C}$ 以下の寒気に覆われていた。500 hPa 面では寒冷渦が朝鮮半島から近畿地方に進んだ（同図）。この低気圧と上空の寒気の影響により関東甲信地方では14日未明～15日昼前にかけて雪が降り、約1週間前の

8～9日に続く大雪となった。この雪により、月最深積雪が山梨県甲府で114 cm、同県河口湖で143 cm、群馬県前橋で73 cm、埼玉県秩父で98 cmとなるなど、統計開始以来の極値が大幅に更新された観測点が多かった（第3図）。この冬2度目の記録的な大雪により、なだれや建物の損壊、農作物の被害などが各地で発生し、鉄道の運休や航空機の欠航など交通機関にも非常に大きな影響が出たほか、複数の都県で交通の途絶による集落の孤立が起こった。

（気象庁予報部予報課 河野麻由可）



第2図 13日21時～16日09時の地上低気圧、500 hPaの寒冷渦の経路図（●印は低気圧の中心位置で、数値は上段が日時、下段が中心気圧、○印は500 hPaの寒冷渦の中心位置で、数値は日時）。



第3図 関東甲信地方（長野県北部は省略）の14日～15日の最深積雪（単位はcm、太字は極値更新、（ ）は欠測を含んだ値を示す）。